

在校生のみなさんへ

2026年度『学修時間・教育の成果等に関する調査』の結果について

「東京経済大学 IR 推進委員会」は、教員と学生関係部署の職員から構成され、大学内のさまざまな情報を収集・分析し、その結果を教育・研究、学生支援等に活用する IR(インスティテューショナル・リサーチ)活動を行っています。

本学の教員は、より教育効果を高めるための工夫・努力を続けていますが、みなさんの学修の状況や成果を知り、その参考とするために、本調査を今年も実施しました。このたび、調査結果がまとまりましたので、過去の結果とも比較し、その概要をご報告いたします。

学生のみなさんには学期末の繁忙期にもかかわらず、回答にご協力をいただき、大変感謝しております。

本学の「全学のディプロマ・ポリシー(全学 DP)」に定められた学修目標の到達度について、各自が自己評価の参考にしてください。自由記述項目で寄せられたみなさんの声もあわせて、今後の教学改革や学生支援に活かしていきます。ありがとうございました。

1、調査の実施概要

	2018 年度	2019 年度	2021 年度	2022年度	2023年度	2024 年度	2025 年度	2026年度
調査期間	2018.7.2～ 2018.7.31	2019.7.1～ 2019.7.31	2021.7.16～ 2021.8.16	2022.7.19～ 2022.8.16	2023.7.18～ 2023.8.16	2024.7.16～ 2024.8.18	2025.7.8～ 2025.8.17	2026.7.6～ 2026.8.17
全体回答者数 (回答率)	890名 (13.3%)	701名 (10.5%)	1,109名 (16.9%)	561名 (8.6%)	418名 (6.2%)	431名 (6.4%)	477名 (7.0%)	660名 (9.7%)
1年生回答率	27.9%	23.2%	26.9%	16.2%	12.8%	14.6%	15.0%	21.6%
2年生回答率	10.4%	10.3%	23.3%	9.1%	5.6%	5.5%	7.2%	11.8%
3年生回答率	10.4%	7.5%	12.1%	7.0%	3.7%	4.0%	4.6%	4.1%
4年生回答率	5.4%	3.0%	7.4%	2.6%	2.7%	2.2%	2.1%	2.5%
留年生回答率	2.6%	1.3%	2.3%	0.5%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
E 学部回答率	10.7%	8.9%	16.3%	9.0%	5.7%	5.2%	6.1%	8.6%
B 学部回答率	17.6%	12.8%	18.6%	9.1%	6.1%	6.2%	8.8%	10.9%
C 学部回答率	11.7%	9.1%	12.6%	6.6%	5.5%	6.8%	4.9%	6.1%
L 学部回答率	10.7%	9.6%	18.6%	8.5%	8.2%	8.6%	6.8%	12.5%
CDP 回答率	14.0%	20.9%	16.1%	5.8%	6.8%	11.8%	9.3%	17.9%

質問項目	最近1週間における平均的な時間の使い方(学修時間の把握) ●出席授業科目数 ●授業時間以外の授業に関する予習・復習・課題学習時間 ●授業とは直接関係のない個人的興味による自主的学習時間 ●資格取得受験勉強時間 ●アルバイト時間 ●サークル活動時間 ●社会活動(ボランティア等)時間 ●インターンシップ・就職活動時間 実際に受講し、その結果、実力がついたと思う科目群 学習成果・到達度自己評価(全学のディプロマ・ポリシーの修得度)
回答率の傾向	アンケート開始からの経年変化を見るため、毎年同様の調査内容で行っています。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で調査を中止し、2021年度はコロナ禍での新たな学生生活スタイルが定着する中、遠隔授業をテーマにリニューアルして再開したところ、関心が高まり回答数も大幅に増加しました。しかし、2022年度以降回答率は大きく減少しています。2023年度以降は設問数を減らし回答率向上を図りましたが、コロナ禍以前の回答率には及んでいません。2026年度の全体回答率は、回答依頼のお知らせをポータルサイトにて複数回配信した結果 9.7%となり、2025年度の 7.0%から 2.7ポイント上昇しました。年度間の回答率について 2 標本比率の差の検定を行った結果、この上昇は統計的に有意となり($z = 5.64$, $p < 0.001$)、回答率は直近で改善していることが確認されました。調査結果の更なる信頼性向上のため、今後も回答者数増加に向けた取り組みが必要と考えられます。

2、調査結果について

1)最近1週間の平均的な時間の使い方

2021年度はほぼ全ての授業が遠隔授業で行われましたが、2022年度からは対面授業が主となりました。全体の傾向をコロナ禍前(2018～2019年度)とコロナ禍後(2021～2026年度)及び直近数年間で比較します。回答率はコロナ禍前が 10%台～19%台、コロナ禍後が 6%台～9%台となっています。 (1)「最近1週間の出席授業科目数」 コロナ禍前は 7 割以上の学生が「7 科目以上」出席している一方で、約 1 割の学生は1年生から「3科目以下」出席と厳しい状況にありました。コロナ禍以降、1、2 年生の「3科目以下」出席の割合が大幅に減少し、「7～9科目」「10科目以上」出席の割合は 9 割以上で推移しています。この傾向は直近においても変わっていません。 注 1: 2021・2022 年度は対面・遠隔別の値を併記していますが、本調査では各学生の授業形態別の履修科目数を調査していないため、対面・
--

遠隔別の出席科目数は単純比較を目的としたものではなく、参考値として示しています(図内右)。

注 2:各年度の対象週について、授業週や試験前後等の条件が同一であることを確認できていないため、経年比較は参考値として示します。

(2)最近1週間の各活動時間

「授業(受講)時間以外の授業に関する学習時間」は、「10時間以上」学習している割合がコロナ禍前より高い傾向がありますが、近年は全学年において減少傾向にあります。

「個人的趣味による自主学習時間」は、全学年でコロナ禍前より増加傾向にあります。但し、2、3年生において週に5時間以上学習している学生の割合は減少傾向にあります。

「資格取得のための学習時間」は、2026年度の1年生で週に「5時間以上」学習する学生の割合が増加しました。背景には、新入生向けに今年度から再開したCSC講座ガイダンス等が、早期からの資格取得学習を後押しした可能性があります。ただし、本調査は両者の因果関係を直接検証するものではないため、施策との関連については、今後の調査・分析を通じてさらに検討を深める余地があります。

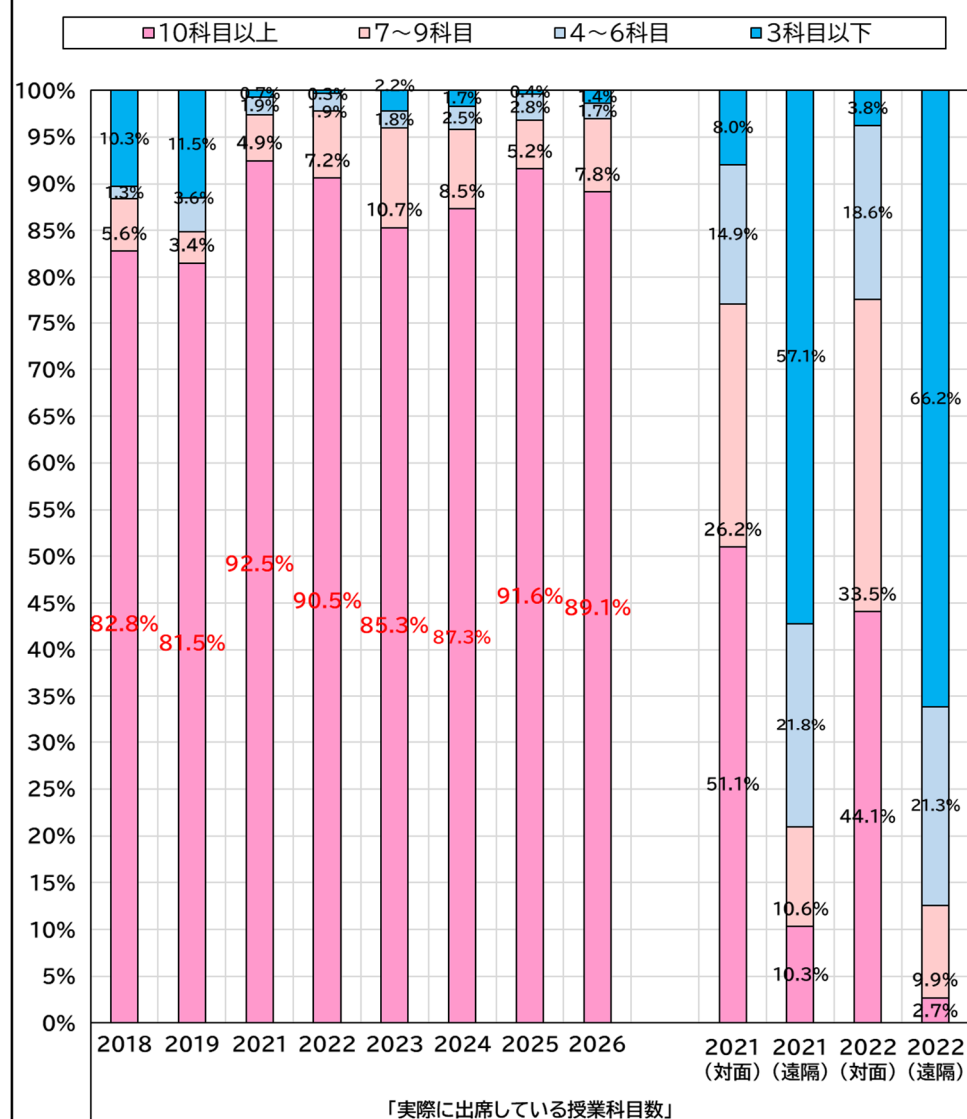
「アルバイト時間」は学年によって異なる傾向があり、2、3年生がやや長い傾向をもちます。

「サークル活動時間」は近年増加傾向にはあるものの、まだコロナ禍前の水準には戻っていない状況です。

(1) 最近1週間の出席授業科目数

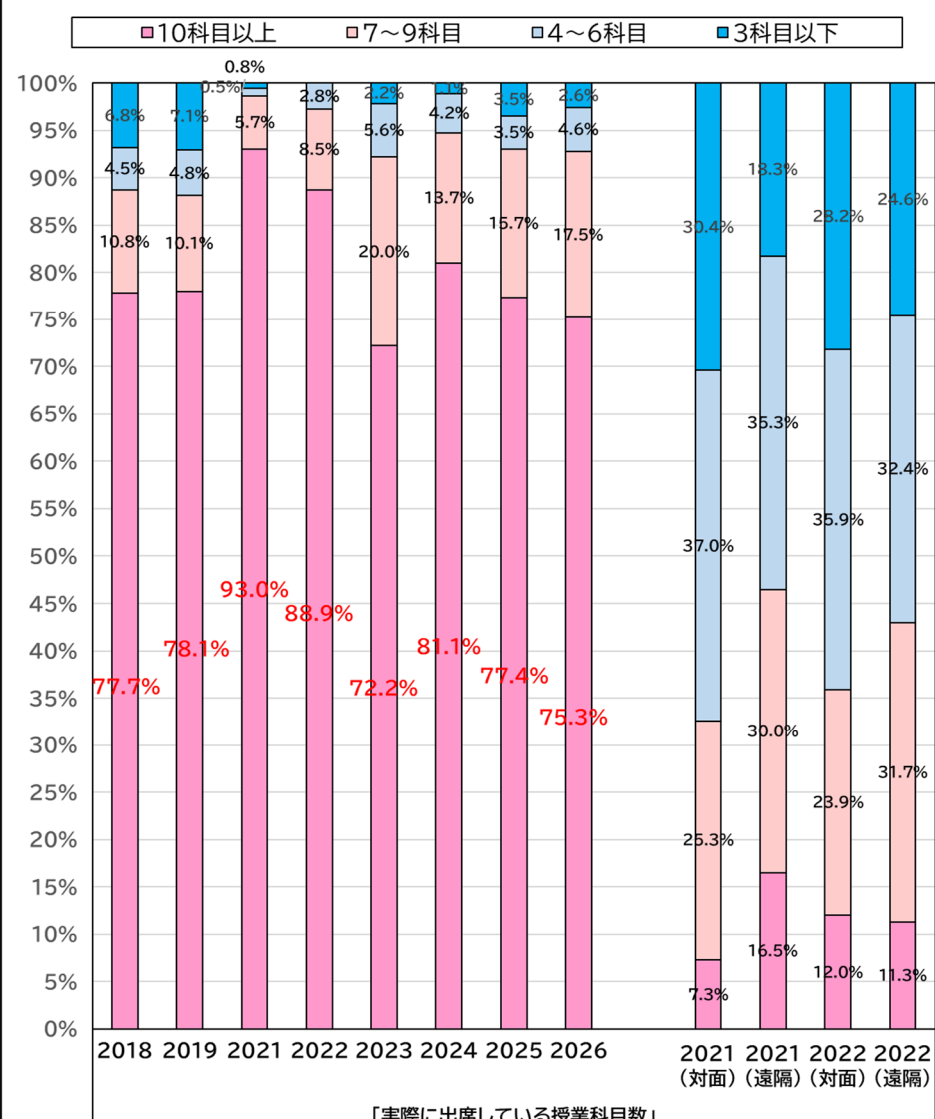
* 最近の1週間:2026.6.29~2026.7.5

最近1週間における「出席授業科目数」 (1年生)



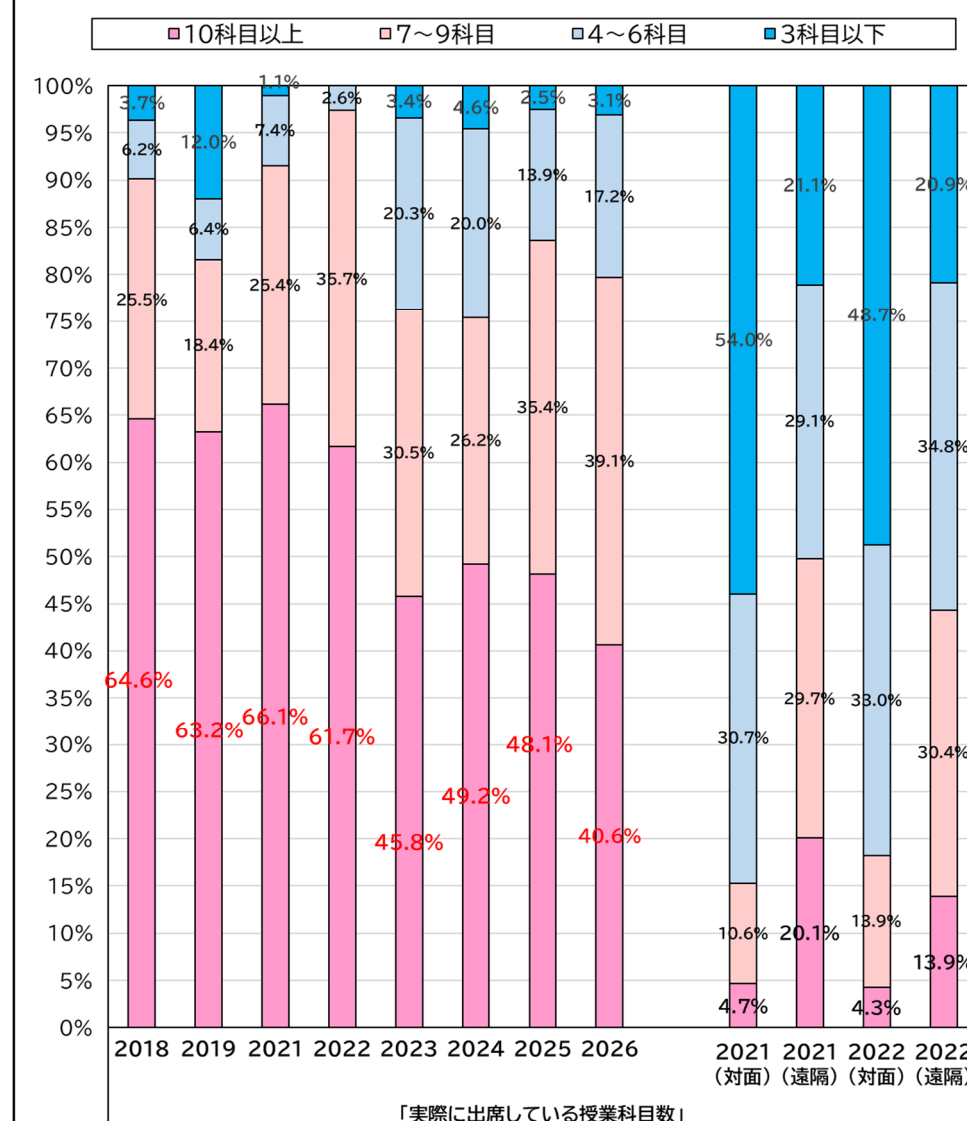
2026年度(n=359)、2025年度(n=249)、2024年度(n=236)、2023年度(n=225)、
2022年度(n=263)、2021年度(n=425)、2019年度(n=357)、2018年度(n=465)

最近1週間における「出席授業科目数」 (2年生)



2026年度(n=194)、2025年度(n=115)、2024年度(n=95)、2023年度(n=90)、
2022年度(n=142)、2021年度(n=371)、2019年度(n=169)、2018年度(n=175)

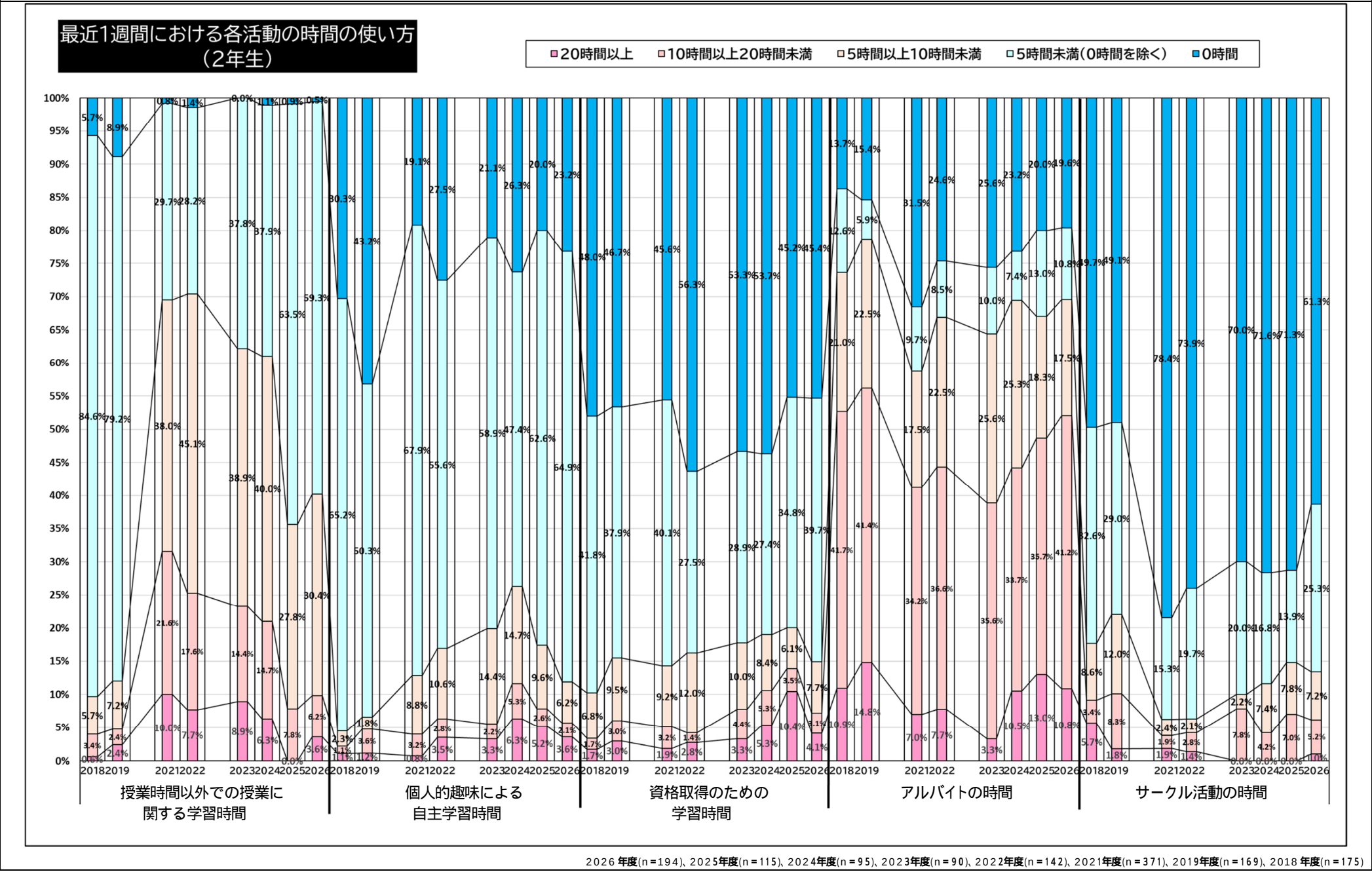
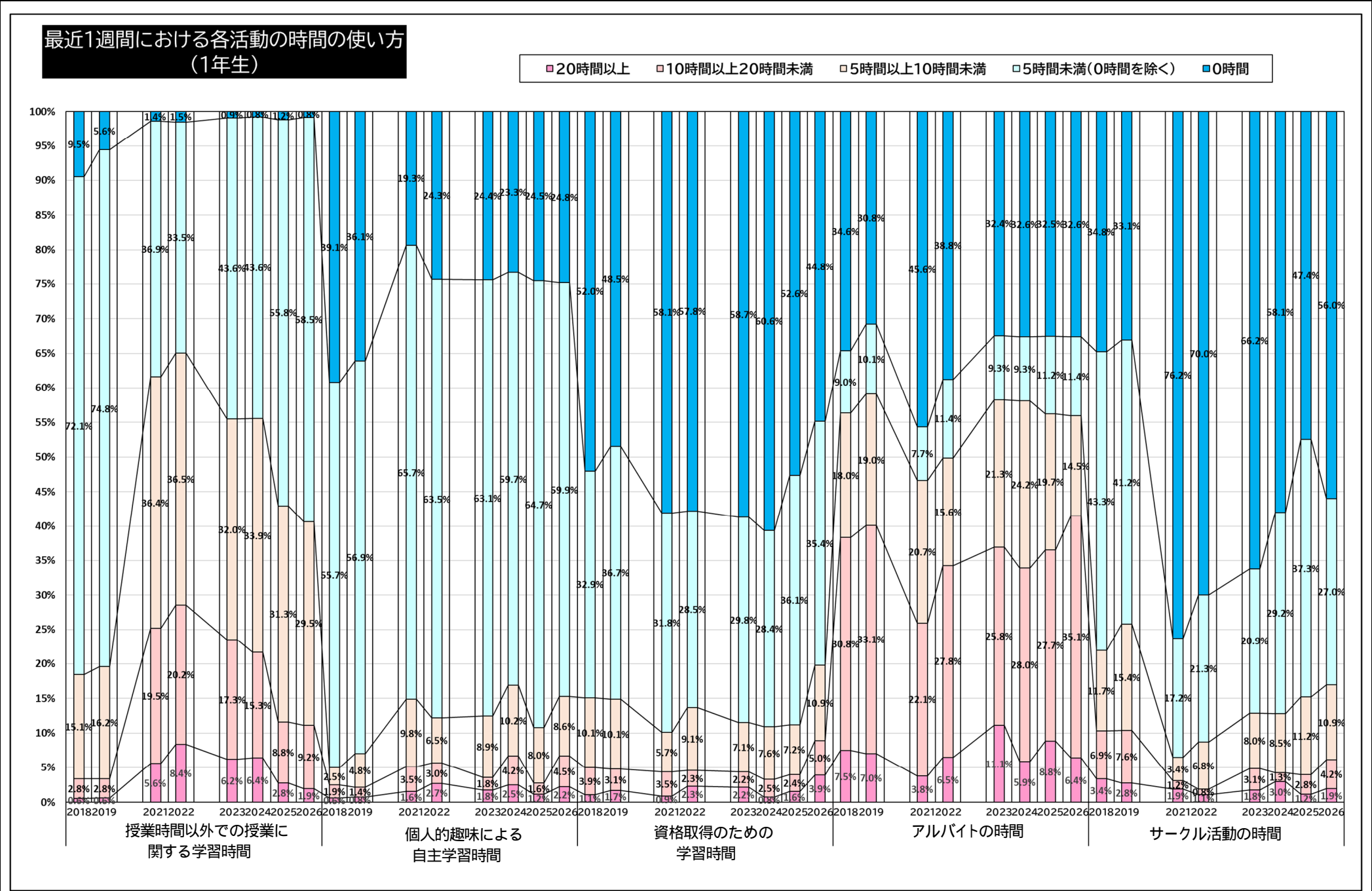
最近1週間における「出席授業科目数」 (3年生)



2026年度(n=64)、2025年度(n=79)、2024年度(n=65)、2023年度(n=59)、
2022年度(n=115)、2021年度(n=189)、2019年度(n=125)、2018年度(n=161)

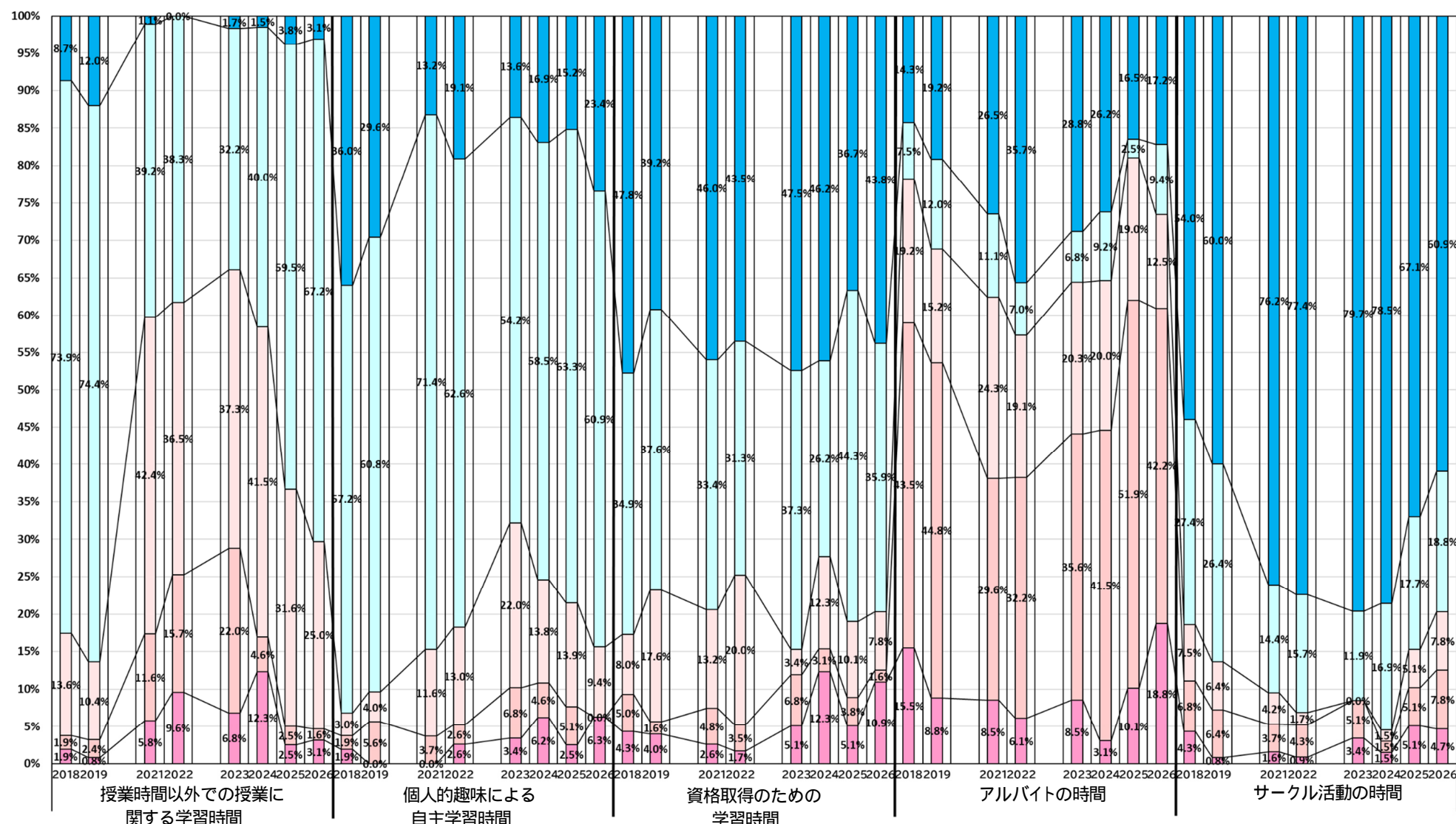
(2)最近1週間の各活動時間

* 最近の1週間:2026.6.29~2026.7.5



最近1週間における各活動の時間の使い方 (3年生)

■20時間以上 ■10時間以上20時間未満 ■5時間以上10時間未満 ■5時間未満(0時間を除く) ■0時間



2026年度(n=64)、2025年度(n=79)、2024年度(n=65)、2023年度(n=59)、2022年度(n=115)、2021年度(n=189)、2019年度(n=125)、2018年度(n=161)

2)「本学の授業で受講し、その結果、実力がついたと思う科目群」

1年生については、2026年度の「英語科目」、「英語以外の語学科目」、「コンピュータ科目」及び「スポーツ科目」について実力がついたと回答する学生の割合が、直近5年間で最低となりました。

2年生では、「1年次演習科目」について実力がついたと回答した学生の割合が例年より高くなりました。2025年度の1年生でも同科目が高い割合を示しており、学年進行に伴う学修成果の変化を考えるうえで注目される結果です。この傾向をより精緻に検証するには、同一学生を継続的に把握できるデータの整備・活用が有効であり、今後の分析を発展させる一つの方向性と考えられます。

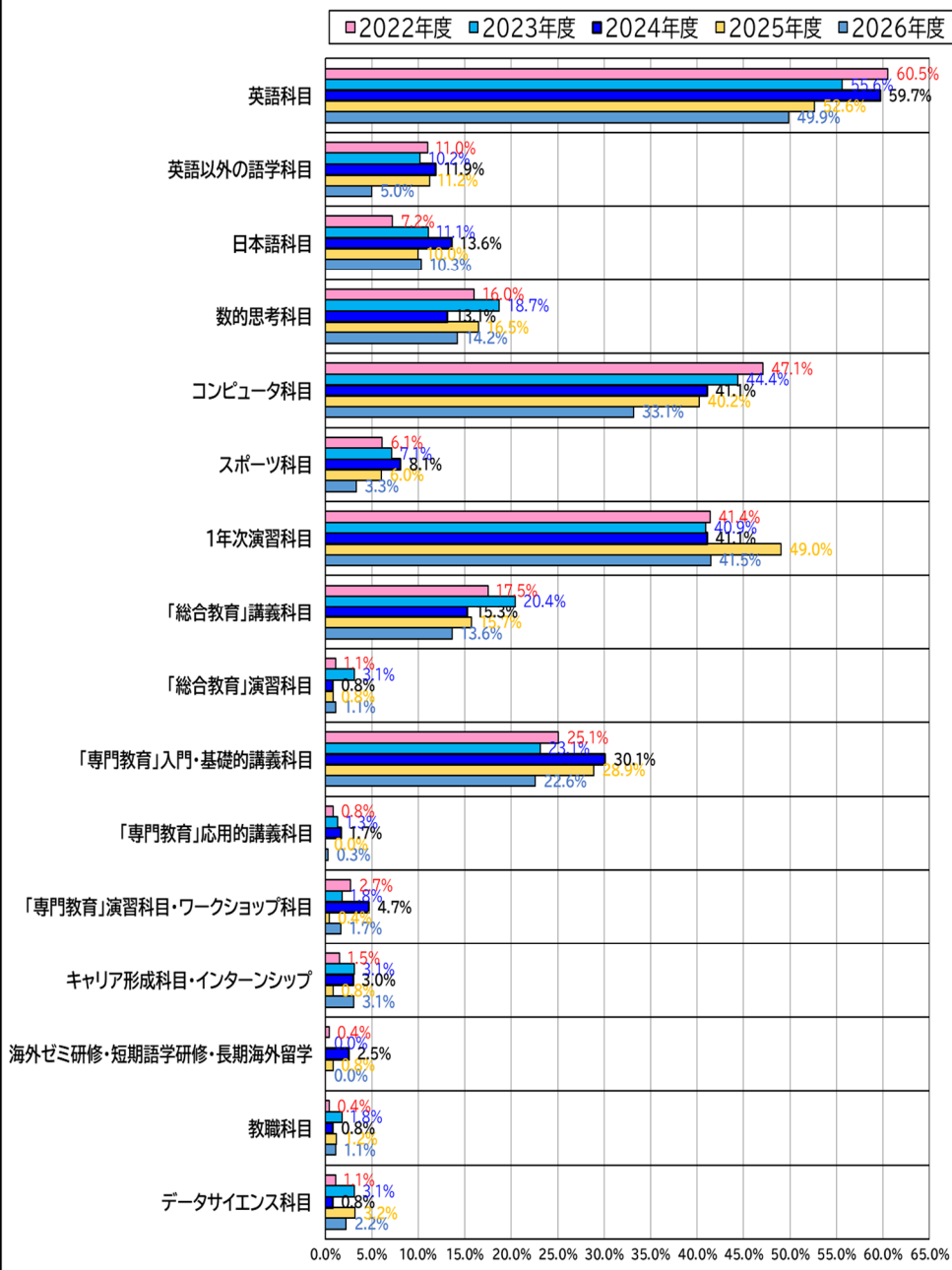
3年生では、「キャリア形成科目・インターンシップ科目」について実力がついたと回答した学生の割合が直近5年間で最も低く、4年生でも低い割合となりました。当該科目群の履修状況を踏まえた分析は、学生の自己評価をより適切に捕捉し、キャリア形成支援の充実に資する知見を得るうえで有効であり、今後の分析の方向性の一つとして位置づけられます。

4年生は「総合教育講義科目」、「数的思考科目」及び「データサイエンス科目」について実力がついたと回答する学生の割合が大きく増加しました。一方、「英語科目」は直近5年で最も低い割合となっています。

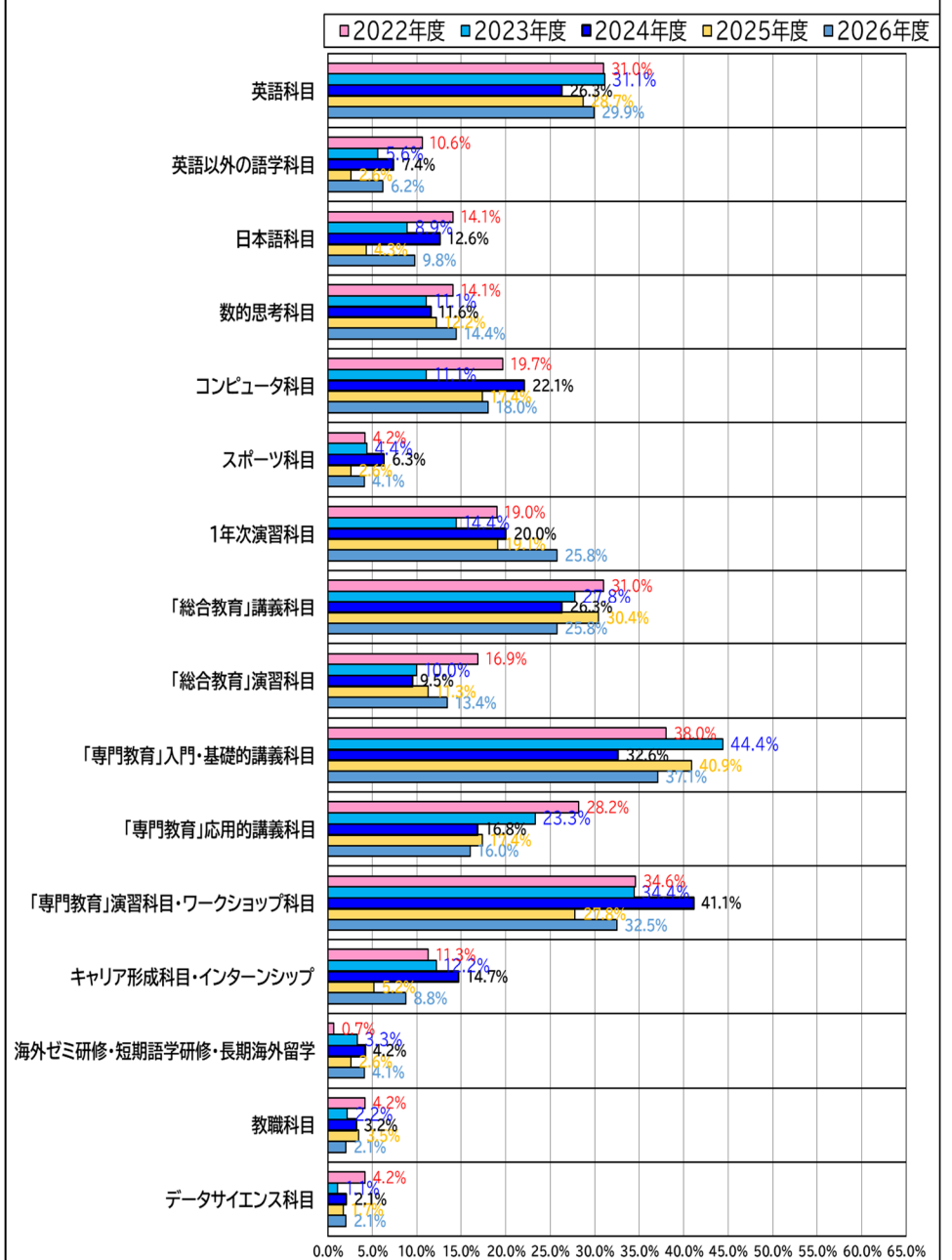
注1:本設問は複数回答となっており、各割合は、当該学年の有効回答者数を分母として、各科目群を選択した回答者の割合を示しています。各科目群の履修者に占める割合ではないため、科目群別の教育効果または実力向上率を直接的に示すものではありません。

注2:集約科目群の値は、構成する選択肢ごとの選択率を合計したものであり、同一回答者を重複して含む場合があります。そのため、学生の割合としては解釈できません。

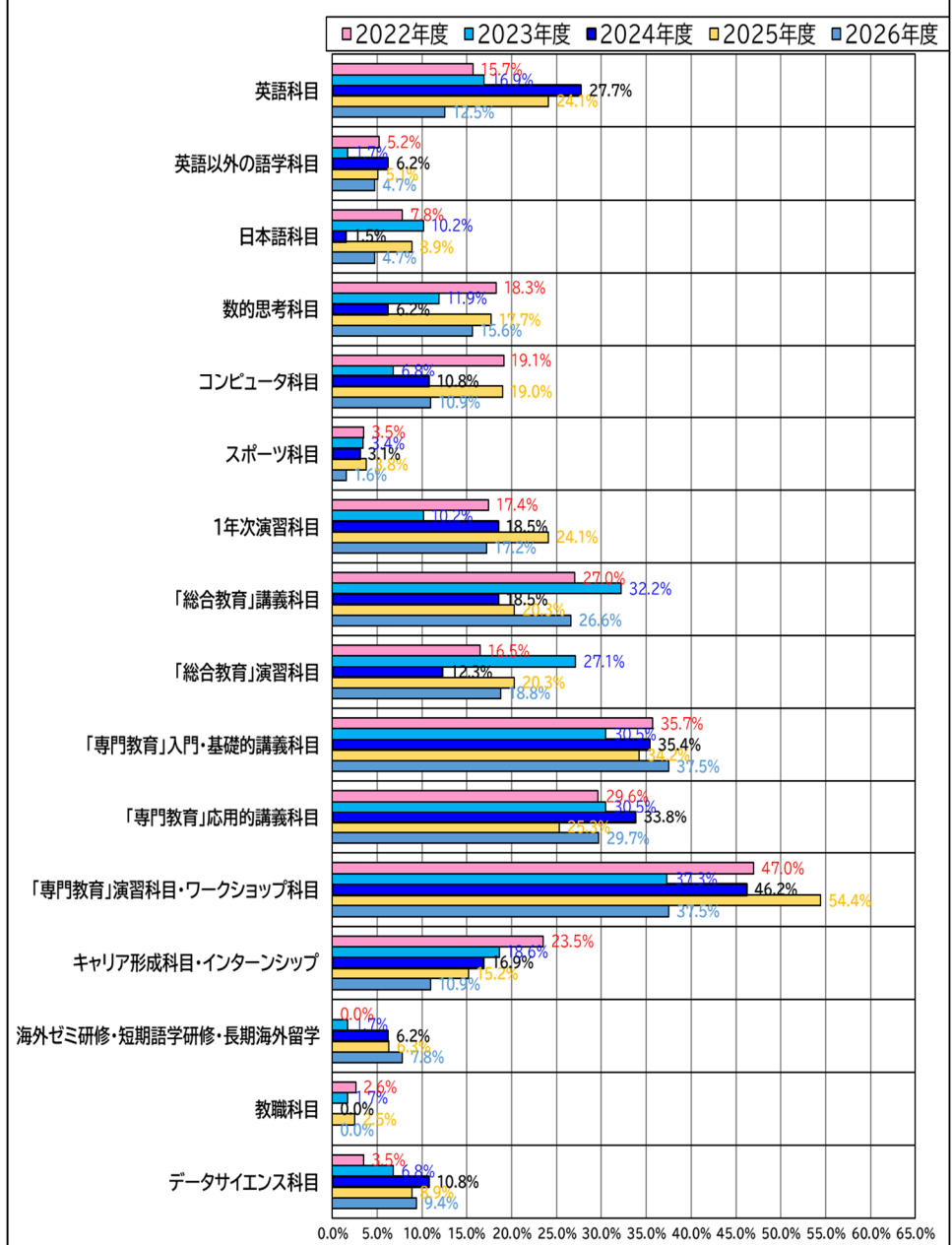
「実力がついたと思う科目群」(1年生)



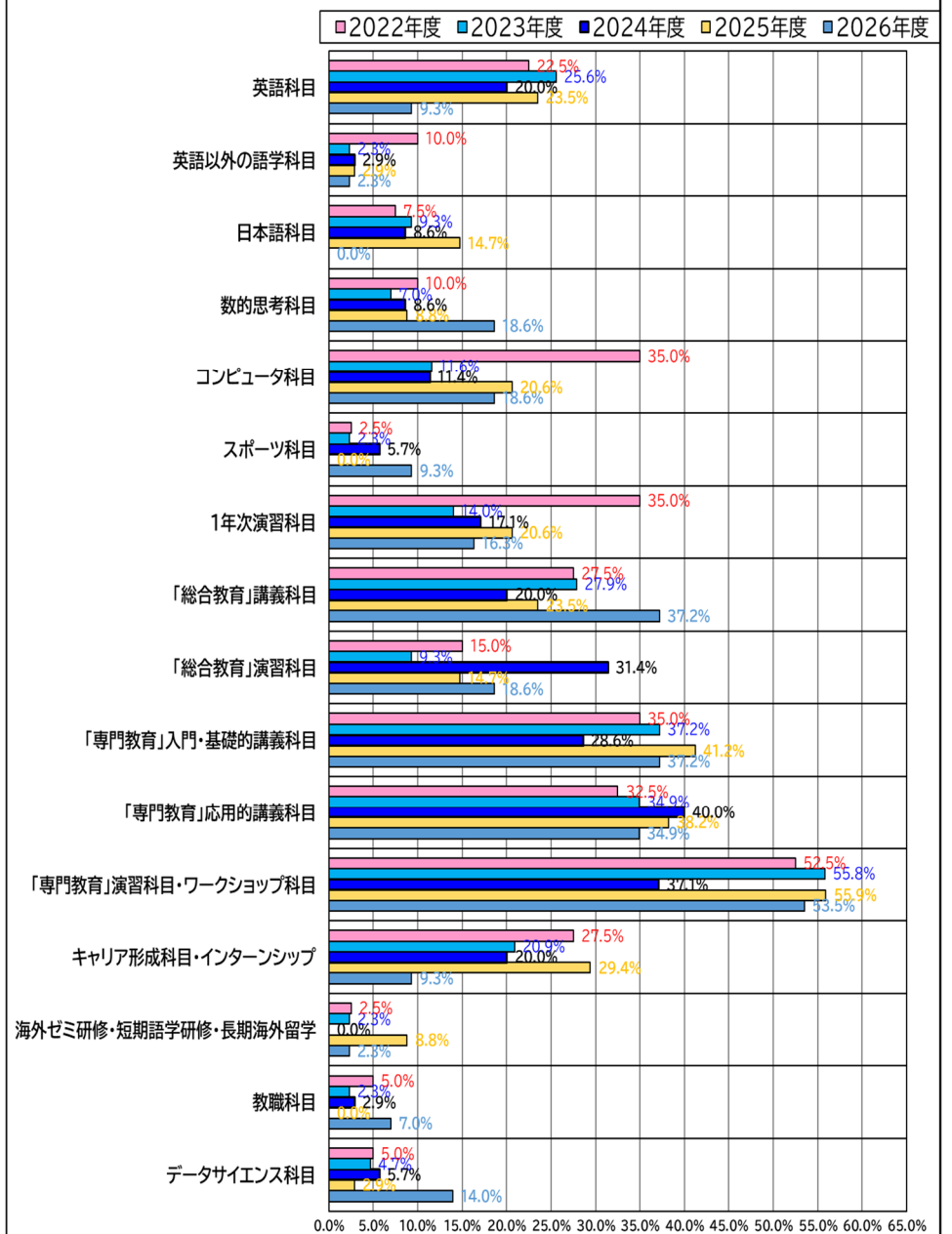
「実力がついたと思う科目群」(2年生)



「実力がついたと思う科目群」(3年生)



「実力がついたと思う科目群」(4年生)



3)学修成果・到達度自己評価

IR 推進委員会では、全学のディプロマ・ポリシー(全学 DP)全体に対する理解度と、DP1～DP4 に示された知識・能力が身についた程度について、継続的に調査してきました。本調査は、学生一人ひとりが自らの学びの成果を振り返り、学修目標の達成状況を確認するための資料の一つとして実施しています。

全学 DP の理解度は、「よく理解している＝3 点」「ある程度理解している＝2 点」「知ってはいるがほとんど理解していない＝1 点」「見たことはない・知らない＝0 点」として数値化しました。DP1～DP4 については、各知識・能力が身についた程度に関する学生の自己評価を、「よく身についた＝3 点」「ある程度身についた＝2 点」「あまり身につけていない＝1 点」「ほとんど身につけていない＝0 点」として数値化しました。

以下の図表では、全学 DP の理解度と DP1～DP4 の自己評価を同じ 0～3 点の尺度上に示しています。ただし、前者は全学 DP 全体に対する理解度、後者は各知識・能力が身についた程度に関する自己評価であり、異なる観点を示す指標として解釈する必要があります。

昨年度との比較

2026 年度は、全学 DP の理解度及び DP1～DP4 の自己評価のいずれも、全体平均が 2025 年度をやや下回りました。一方、4 年生では、全学 DP の理解度及び DP1～DP4 のすべてが前年度を上回りました。

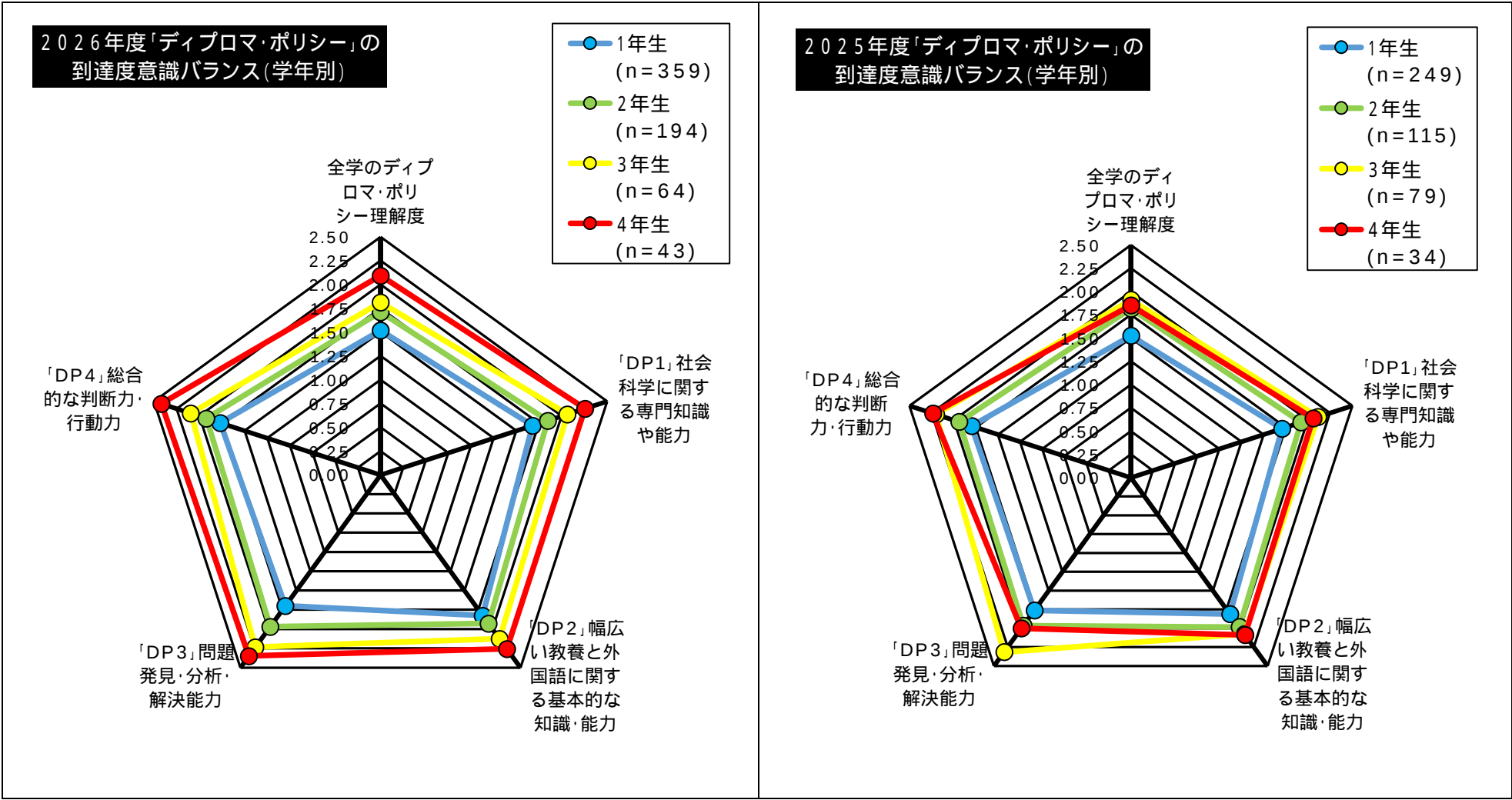
全体の傾向

DP1～DP4 は、2021 年度に設問を分かりやすく表現し直しており、同年度以降は自己評価が高い水準となっています。設問表現の変更を含むため、変更前後の比較には留意が必要です。また、2026 年度の学年別結果では、概ね上級学年ほど自己評価が高い傾向がみられます。

	身についたと思う資質・能力	2022年度 全体平均値	2023 年度 全体平均値	2024 年度 全体平均値	2025 年度 全体平均値	2026年度 全体平均値	前年度比
全学 DP	「全学 DP」全体の理解度	1.56	1.59	1.69	1.68	1.64	- 0.04
	DP1 社会科学に関する専門知識・能力	1.78	1.79	1.85	1.85	1.80	- 0.05
	DP2 幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力	1.95	1.89	1.93	1.92	1.91	- 0.01
	DP3 現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力（実践的知力）	1.93	1.85	1.89	1.92	1.87	- 0.05
	DP4 上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力（進一層）	1.86	1.79	1.86	1.93	1.89	- 0.04

*年度ごとの全項目平均値を上回る項目は、赤の網掛け、下回る項目は青の網掛け

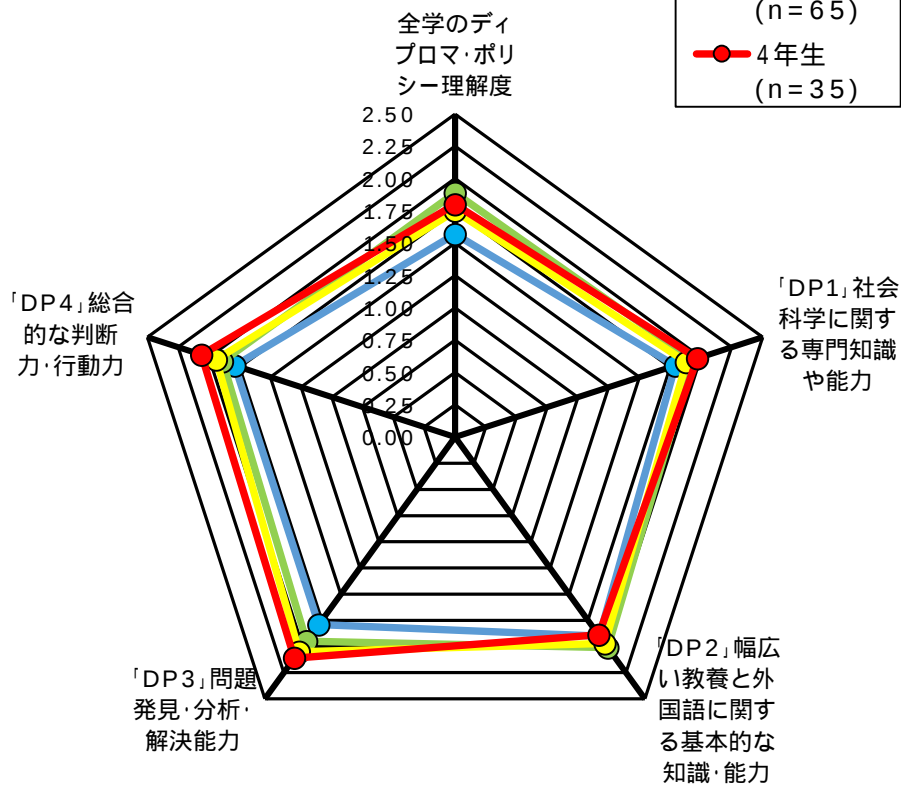
2024 年度の「「全学 DP」全体の理解度」及び「5 項目の平均値」について数値に誤りがあったため、数値及び網掛けの一部を修正しました



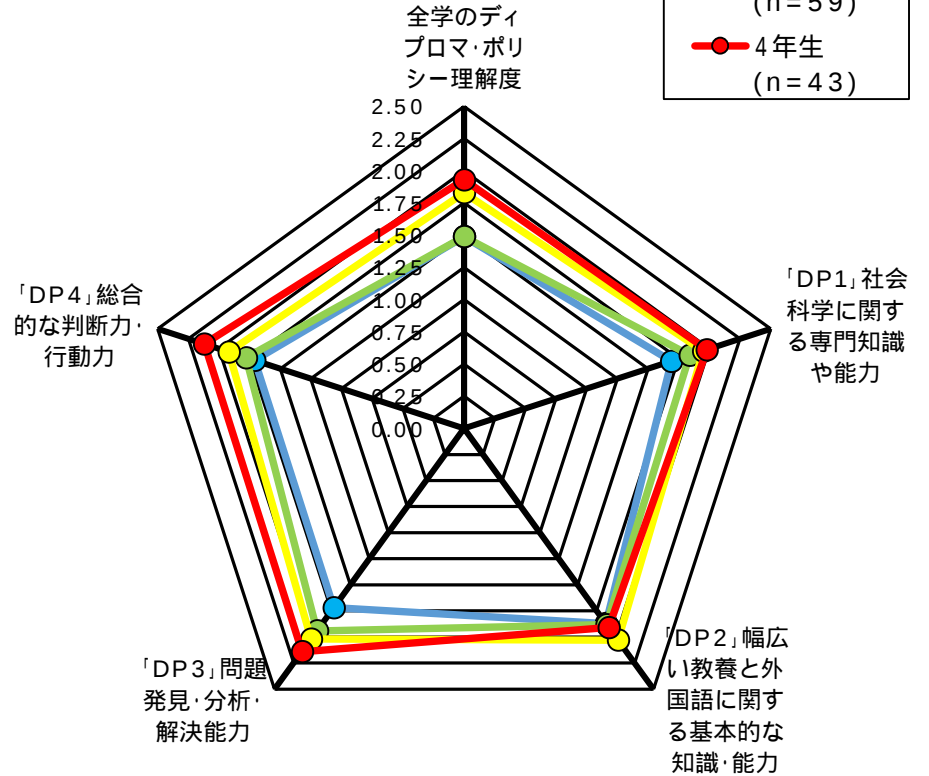
2026 年度	全学の DP 理解度	DP1	DP2	DP3	DP4
1年生	1.52	1.68	1.82	1.70	1.77
2年生	1.71	1.85	1.93	1.97	1.92
3年生	1.81	2.06	2.13	2.23	2.09
4年生	2.09	2.26	2.26	2.35	2.42

2025 年度	全学の DP 理解度	DP1	DP2	DP3	DP4
1年生	1.53	1.71	1.81	1.76	1.80
2年生	1.82	1.92	1.98	1.97	1.94
3年生	1.91	2.11	2.08	2.32	2.20
4年生	1.85	2.06	2.09	2.00	2.24

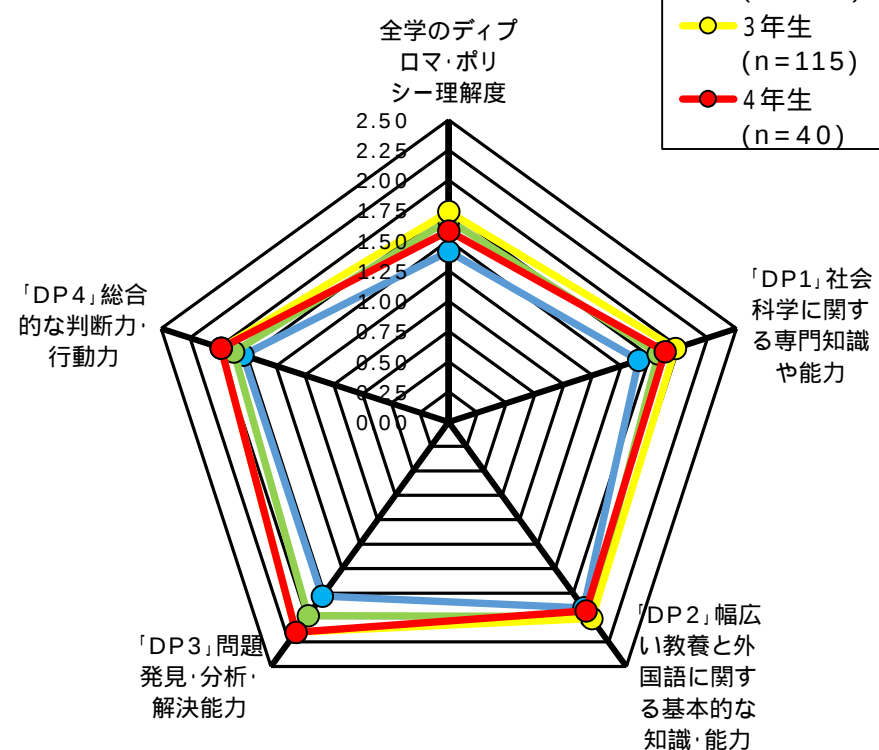
2024年度「ディプロマ・ポリシー」の到達度意識バランス(学年別)



2023年度「ディプロマ・ポリシー」の到達度意識バランス(学年別)



2022年度「ディプロマ・ポリシー」の到達度意識バランス(学年別)



以上

注：本報告書に記載された過年度値は各年度の既公表値を掲載しています。年度により回答方式及びデータの補正方法等が異なるため、年度間の比較可能性には一定の制約があります。このため、経年値は全体的な傾向を把握するための参考値として位置づけています。